

教員養成教育認定評価
岡山大学教育学部 評価報告書

平成28年4月

東京学芸大学教員養成評価開発研究プロジェクト

目 次

I	評価結果	1
II	評価結果のポイントと教員養成機関への提言	1
III	基準領域ごとの概評	3
	基準領域 1 構成員の合意に基づく主体的な教員養成教育の取り組み	3
	基準領域 2 教職を担うべき適切な人材の確保	5
	基準領域 3 教職へのキャリア・サポート	6
	基準領域 4 大学教育の一環としての教員養成カリキュラムの運営	7
	基準領域 5 子どもの教育課題と大学教育との関連づけ	8
IV	評価結果についての説明	9
	根拠資料一覧	

I 評価結果

岡山大学教育学部における教員養成教育は、教員養成教育認定基準に示されているすべての基準に照らし合わせた結果、基準領域をすべて満たしていると認められる。

II 評価結果のポイントと教員養成機関への提言

岡山大学教育学部は、1949（昭和 24）年に、岡山大学創設と同時に設置され、「拡大期」、「縮小期」を経て、2006（平成 18）年に総合教育課程を廃止し、学校教育教員養成課程と養護教諭養成課程の 2 課程からなる教員養成に特化した学部再編を行った。この再編以降を「充実期」と捉え、教員の協働的研究に基づく教員養成教育の実現と、学生の共同的学びによって教師になるための資質・能力の向上をめざした活動を行っている。

学部の教員養成教育の理念は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーにおいて明確に示されている。その実現にあたって、教師として求められる「教育実践力」が「4つの力」（学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力）として端的にわかりやすく示されている。これを軸に、課程・コースごとに目指すべき教師像とその具体的内容について所属教員の共通理解が図られているとともに、学生においても 4 年間を通じて学びの自己評価の観点として機能し、「教職実践ポートフォリオ」の活用など指導教員との相互確認の仕組みが整えられている。

教職課程のカリキュラムについては、「大学の授業と教育現場での実践の効果的往還」を意図した明確な目的意識のもとに、実習科目を中核として構造化された「教員養成コア・カリキュラム」が編成されている。特に、教育実習は、1 年次の附属校園での観察実習から 4 年次の公立学校での「教職実践インターンシップ」まで、積み上げ方式の実習が必修化され、継続的・系統的な実習プログラムが実施されている。また、「教科構成学開発事業」などの共同研究や F D 研修会などを通して、各授業科目の教員養成における位置づけや役割が見直され、改善のための努力が組織的に行われている。さらに、カリキュラムマップの公開、教員免許取得ガイドの発行など教員養成を目的・計画的に進捗させるための情報が十分に整っている。こうした情報の整備と公開は、カリキュラム改善のための基礎資料として有効に活用されているのみでなく、学生の意欲を継続させることにも役立っている。

教育現場との連携においては、附属校園との組織的連携における取り組みが注目され、附属校園での実習委員会に月一回学部教員が参加していること、大学の授業（基礎研究）5 回分を附属教員が担当し指導案の書き方等を講義していること、附属校園の教員研修会に学部・教師教育開発センター教員が講師として招聘され交流を図っていることなどが挙げられる。また、4 年次の必修科目である「教職実践インターンシップ」は、公立校園における長期分散型実習であり、学生にとって学校現場の実態に関する理解を醸成する機会となっている。しかしながら、学生の学習指導力の育成に関する自己課題の解決につながる体験を提供する内容とは必ずしもなっていない現状が自覚されており、今後、教育委員会や公立校園との連携を強化することで内容が充実されることが期待される。

教職を担うべき適切な人材の確保や、学生のサポート体制の充実については、各種委員会において、学生の実態に関する調査が適宜実施され、その結果が有効に活かされている。入試においては、学部・課程・コースごとにアドミッション・ポリシーを設定し、教育の理念・目的、それに応じた求める人材像を踏まえた多様な入試が行われている。これらの選抜方法の適切性・妥当性については、入学後及び教員就職率などの調査をもとに検証し、改善するための体制がとられている。教職へのキャリア・サポートにおいては、毎年、進路希望調査によって教職希望の学生の状況が把握され、その結果は詳しく教授会で報告され、それを元に、各教員が学生の教職志望の維持・上昇に向けた取り組みを行っている。

総じて、岡山大学教育学部の教員養成の取り組みは、所属教員の高い意識のもと理念が共有され、組織的な研究や調査に基づく恒常的な改善が図られ、それが、学生の教職へのキャリア・サポートの充実につながっていると評価できる。今後は、実習科目の運営や内容の充実に向けた更なる改善や、教員の負担増への配慮、教育学部独自の学生のメンタルケアへの取り組み、地域枠入試の導入などへの検討が期待される。

Ⅲ 基準領域ごとの概評

基準領域 1 構成員の合意に基づく主体的な教員養成教育の取り組み

1 評価結果

1) 基準 1-1 [教員養成教育に対する理念の共有]

学部のミッションを明確にした上でディプロマ・ポリシーが構築されていることが理解できる。それは「4つの力」(学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力)として端的に表現され、所属教員が目指すべき教員養成教育の観点として共通理解がしやすい内容である。さらに、「教職実践ポートフォリオ」においても、上記「4つの力」を評価の観点としたリフレクションが構成され、教員のみならず学生に対しても理念の共有化が図られている。また、「教職実践演習」において特定の担当者のみではなく学部・講座全体で当該授業に関わる体制を組織的に保証していることや、FD研修をシラバスのすりあわせに活かし、カリキュラムの構造化にもつなげていることは、理念の共有という観点から評価できる。今後、これらの取り組みについての到達度を自己検証するシステムの検討が期待される。

2) 基準 1-2 [教職課程のカリキュラム編成の工夫]

教職課程のカリキュラムについて多くの先進的、意欲的な取り組みが見られる。特に実習科目を中核とした「コア・カリキュラム」の編成が特徴的であり、教科の構造化(学習指導要領の内容理解→教科を支える学問領域の研究→実習後の内容開発・指導法開発)を明確にし、学生に対して学習の内容や深まりがわかりやすく工夫されている。このことから「大学の授業と教育現場での実践の効果的往還」を目指した学部カリキュラム・ポリシーに基づくカリキュラム編成の工夫は十分に行われている。

3) 基準 1-3 [教職員の組織体制に関する工夫]

特に、附属校園との組織的連携における取り組みが注目され、附属校園での実習委員会に月一回学部教員が参加していること、大学の授業(基礎研究)5回分を附属教員が担当し指導案の書き方等を講義していること、附属校園の教員研修会に学部・教師教育開発センター教員が講師として招聘され交流を図っていることなどが挙げられる。こうした取り組みは、通常の公立校園との関係では築きにくいことであり、附属校園を持つ大学としての特質を活かした内容として非常に優れた取り組みである。

4) 基準 1-4 [教職課程に対する自律的・恒常的な改善システムの構築と運用]

平成 18 年に「教員養成コア・カリキュラム」の見直しと改善が実施されて以降も、実践結果に基づく検証と省察を繰り返しており、現在は平成 30 年を目処とした再検討が開始されている。また、構造化されたカリキュラムマップの作成と授業のナンバリングの導入を連携させるなど、全国的にも先進的な教職課程カリキュラムの構成を実施している。聞き取り調査から、「実習に行き、他大学の学生と話をした時にカリキュラムが非常に手厚くできていることに気付いた」との感想も出ており、教職課程に対する自律的・恒常的な改善システムは十分に機能しており、優れている。

2 特記すべき事項

体験的科目「フィールド・チャレンジ」は、教育現場等との連携によって開講される授業科目で、学生の教育

課題意識を高める上で有効に機能している。また、カリキュラムマップの公開、教員免許取得ガイドの発行など教員養成を目的・計画的に進捗させるための情報が十分に整っている。こうした情報の整備と公開は学生の意欲を継続させるものであり先進的な取り組みであると言える。

基準領域 2 教職を担うべき適切な人材の確保

1 評価結果

1) 基準 2-1 [教職課程への学生の導入に関する工夫]

明確なアドミッション・ポリシーが学部・課程・コースそれぞれに設定され、それに基づき多様な入学者選抜が行われている点が優れている。一般入試、AO入試に加え、2015（平成 27）年度入試より、国際バカロレア入試を開始し、異なる観点から、様々な資質を持つ学生の選抜を行っている。これらの選抜方法の適切性・妥当性については、入学後及び教員就職率などの調査をもとに検証し、改善するための体制がとられている。また、高校生を対象としたワークショップなどを開催して教職への意欲や関心を高めたり、地域枠入試の導入を検討したりしている。このように、入学選抜制度の運用上の課題を把握しつつ、積極的な取り組みを行い適切な人材の確保に努めていると評価できる。

2) 基準 2-2 [教職課程履修生／教職志望学生への適切な支援と指導]

「教職実践ポートフォリオ」は、4つの力（学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力）で構成される教育実践力について、学生自らが実習前後に自己課題を確認することに役立つよう工夫されており優れている。それぞれの過程で、指導教員がコメントと共に直接指導を行うことで、より効果的に自己の現状を認識させることができ、さらには、実習と大学の授業を往還することにつながる。ただし、ポートフォリオ記入への学生の負担感をなくし、主体的・意識的学びにつながるポートフォリオの活用が定着するような指導の工夫が期待される。

学生の教職志望の維持・上昇に向けた取り組みとして、就職・学生委員会では、毎年、進路希望調査を行っており、教職希望の学生の状況が把握されている。その結果は学年別集計、年度比較などにより、教職志望状況について詳しく教授会で報告され、それを元に、各教員が担当学生等に対して指導を行うことで、教職志望の低下を防いでいる。このように、学生個別の対応だけでなく、全体としての傾向を把握し、対策が検討されていることは評価できる。

2 特記すべき事項

AO入試においては募集単位ごとにアドミッション・ポリシーに基づく評価基準やチェックリストを作成し、書類審査、面接、プレゼンテーション課題などから多面的な選抜を行っている。また、年度ごとに見直しや変更を行い、継続的な評価と改善に取り組んでいる。

基準領域 3 教職へのキャリア・サポート

1 評価結果

1) 基準 3-1 [教職への意欲や適性の把握]

教師教育開発センターと協働して「教師力養成講座」を開講するなど、学生の教職への意欲と適性の向上を支援しており、十分に機能している。同センターの教職相談室は、教職関係資料の収集や教員採用試験対策などの相談に活用されている。また、各講座独自のキャリア・サポートも実施されており、学外での合宿研修、学外研修などに対して学部の経費からの支援も行われている。

学生の教職への意欲や適性の把握については、各種委員会が定期的に調査を実施し、データ収集及びその活用が図られていることから優れている。就職・学生委員会を中心として、全学年を対象とした「進路等希望調査」、4年次生を対象とした「教員採用試験受験状況・合格状況調査」及び「進路等状況調査」が行われ、この資料が教職へのモチベーション低下や卒業後の進路に迷いが生じた学生への早期対応に役立てられている。また、教務委員会は、学生の履修状況を常に把握しており、委員会と教員とが学生の状況を共有し、継続的な履修指導を可能としている。

2) 基準 3-2 [履修指導を支える組織体制やシステムの充実]

学生のキャリア形成については、各種委員会が役割を分担し、講座や教員によるキャリア・サポートを支え、教授会やFD研修等の機会を利用した情報の共有化や、改善にむけた検討を行っており、十分に機能している。また、教員採用試験に向けて、教育学部同窓会組織や教育委員会との連携など多様な取り組みが行われている。学生のヘルスケアやメンタルケアへの対応については、全学の保健管理センターと学生支援センターが中心となっているが、教育学部としての対応が必要であるとの課題が意識されていることから、今後の検討が期待される。

2 特記すべき事項

教師教育開発センターと就職・学生委員会及び教育学部同窓会の共催による「教職ガイダンス」（毎年10月～1月、2年次生以降の全学生対象）と、学部オリエンテーション（毎年4月）において、半年ごとに学生の教職への意欲や心構えを喚起する機会が設けられている。

基準領域 4 大学教育の一環としての教員養成カリキュラムの運営

1 評価結果

1) 基準 4-1 [大学としての自律性とスタッフ・教育課程の充実]

教職課程の充実に関わる取り組みとして、「教科構成学開発事業」を進めており、その成果として教科内容構成指導ハンドブックを作成している。こうした取り組みが学部事業としてなされている点が優れている。また、この「教科構成学開発事業」の成果と「教員養成コア・カリキュラム」との関係性が理論的に明確であり、それをFD研修等で共有しようとしている点は、自律性という観点から優れた取り組みであると評価できる。

カリキュラムとの連携という点では、教科Ⅰを指導要領、教科Ⅱを学問概論、教科Ⅲを教科内容開発と明確に位置付け、それを授業ナンバリングでレベル分けする取り組みは全国的にも数少ない優れた取り組みである。

2) 基準 4-2 [創造的な課題発見・課題解決を促す修学環境や授業方法の充実]

1年次の観察実習から4年次の「教職実践インターンシップ」まで、学校現場と大学授業との往還を意図的に行う取り組みがされている。このことは学生に対して実践的な課題発見を促す機会を多様に保証する取り組みである。こうした成果は単に機会を保証するだけでなく、コア・カリキュラムという修学システムに基づくものであり、当該学部のカリキュラムの優位性を示すものである。ただし、インターンシップの内容については学生の学びのニーズと合致しない場合がある点は改善を求めたい。

創造的な課題発見という点では「フィールド・チャレンジ」も意欲的な取り組みである。多様な内容のワークショップを学外で取り組む内容であり、学校以外の教育機関も対象となっている点は学生の課題意識を広げる点から優れた取り組みである。ただし、履修上の時間的制約から、必ずしも多くの学生が参加できるようになっていないことから、今後発展的に改善を進めることは必要である。

また、各教員が、多様な形態の指導法を取り入れた授業を導入しており、創造的な課題発見・解決の能力の育成に取り組んでいる。

2 特記すべき事項

学生の創造的な課題解決を促す取り組みとして、「指導法開発」及び「教科内容開発」などの授業が3年次の教育実習の前後に設定されており、教育実習の学習効果を高めることに役立っている。

基準領域5 子どもの教育課題と大学教育との関連づけ

1 評価結果

1) 基準5-1 [学校現場への理解と教育実習の充実]

1年次の観察実習から4年次の「教職実践インターンシップ」まで、積み上げ方式の実習が必修化され、継続的・系統的な実習プログラムが実施されていることは優れている。例えば、3年次の附属校園での実習プログラムは、4週間の中で、大学での授業を踏まえて段階的に内容が深化していくように計画されており、取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力の育成が図られていることに加え、教育実習生として保護者と交流する機会も設定されており、学校現場を理解する良い機会が提供されている。さらに、4年次のインターンシップにおいて公立校園の多様な児童・生徒の実態や、授業以外の教員の職務内容を経験することで、公教育のシステムや広い視野の醸成の機会となっている。また、実習の前後で、ポートフォリオが活用されている。課題として、教育委員会との連携における地域の教育課題への対応や、公立校園との連携における教職実践インターンシップのプログラムの充実が望まれる。

2) 基準5-2 [体験の省察・構造化の充実に関する工夫]

「教職実践インターンシップ」の必修化および「フィールド・チャレンジ」科目によって、学校現場の課題を学生自身が発見していき、省察を深める機会がつけられており、体験の省察とその構造化が工夫されている。また、教師教育開発センターと連携して、学生ボランティア活動への参加を支援するとともに、充実にむけた取り組みを始めていることは、学生の興味関心や生活スタイルに合わせた、自主的な体験活動の選択肢を広げるといふ点で評価できる。

3) 基準5-3 [教育関連諸機関との連携・協力体制の構築と充実]

岡山県・岡山市・倉敷市教育委員会と協働して種々の取り組みが行われており成果を上げていることが評価できる。例えば、初任者研修支援プログラムや、理数系中核教員(CST)の養成プログラムの開発など、養成と研修の一本化を視野にいたった取り組みや、岡山市と連携した持続発展教育(ESD)の取り組みなどを実施していることは評価できる。

2 特記すべき事項

毎年、「教職インターンシップ」終了後に、受け入れ校園と学生にアンケート調査を行い、学部、各教育委員会、協力校園とで、反省会を実施し、アンケート結果を共有し、次年度の改善点を検討していることは優れた取り組みである。

IV 評価結果についての説明

東京学芸大学教員養成教育開発研究プロジェクトでは、平成 26 年度から「日本型教員養成教育アクレディテーション・システムの開発研究」事業（文部科学省特別経費（プロジェクト型））を推進し、教員養成教育を行う国公立の多様な大学と連携して、平成 22～25 年度に実施した「教育養成教育の評価等に関する調査研究」事業（文部科学省特別経費（プロジェクト型））が策定した、教員養成教育認定基準や評価ハンドブック等に基づき、相互評価活動を実施しています。

岡山大学教育学部の教員養成教育認定評価について、その結果をⅠ～Ⅲのとおり報告します。

本プロジェクトでは、教員養成評価開発研究プロジェクト委員会を設置し「教員養成教育認定実施要項」、「自己分析書作成の手引き」および「訪問調査実施マニュアル」等により岡山大学教育学部が実施した自己分析を前提に書面調査および訪問調査を行い、評価結果を作成しました。

評価は教員養成評価開発研究プロジェクト委員会の下にある評価チームの評価員 4 名が担当しました。評価員は教員養成を行う大学の関係者、教育委員会又は学校関係者で構成されています。評価にあたっては、教員養成教育認定基準に基づき実施しました。

書面調査は平成 27 年 8 月 10 日付けで岡山大学教育学部より提出された「教員養成教育認定評価自己分析書」および「現況票」および「根拠資料一覧：資料 1 岡山大学教育学部ディプロマ・ポリシーほか全 71 点、訪問調査時追加資料：資料 72 大学組織図ほか全 11 点」をもとに調査・分析しました。各評価員から主査に集められ、調査・分析結果を整理し、平成 27 年 11 月 2 日、岡山大学教育学部に対し、訪問調査時における確認事項と追加提出書類・閲覧書類に関する連絡をしました。

平成 27 年 12 月 3 日、4 日の両日、評価員 4 名が岡山大学教育学部の訪問調査を行いました。

訪問調査では、教員養成機関関係者（責任者）および教職員との面談（2 時間 30 分）、授業等教育現場の参観（5 科目 1 時間 30 分）、学習環境の状況調査（30 分）、実習学校等関係者との面談（45 分）、在学生との面談（1 時間）、卒業生との面談（1 時間 30 分）、関連資料の閲覧などを実施しました。

書面調査と訪問調査に基づき、各評価員から主査に調査・分析結果の最終報告が集められ、主査が評価結果を取りまとめた後、評価員全員で確認し、平成 28 年 1 月 24 日開催の評価チーム会議において審議し「評価結果原案」としました。

「評価結果原案」は、平成 28 年 1 月 24 日開催の評価部会および平成 28 年 2 月 11 日開催の教員養成評価開発研究プロジェクト委員会に諮り審議し、「評価結果案」としました。「評価結果案」を、岡山大学教育学部に示し、意見提出の手続きを経たのち、平成 28 年 4 月 17 日開催の教員養成評価開発研究プロジェクト委員会で審議し、最終的な評価結果を決定いたしました。

評価結果は、「Ⅰ 評価結果」、「Ⅱ 評価結果のポイントと教員養成機関への提言」、「Ⅲ 基準領域ごとの概評」で構成されています。

「Ⅰ 評価結果」は、教員養成教育認定基準に示されているすべての基準に照らし合わせた結果、基準領域をすべて満たしているか否かを記しています。

「Ⅱ 評価結果のポイントと教員養成機関への提言」は、評価結果を導いた根拠を含めた全体の概評、当該教員養成機関の長所と課題や、当該教員養成機関への提言などを記しています。

「Ⅲ 基準領域ごとの概評」は、「1. 評価結果」として、基準領域ごとの評価結果について記しています。「2. 特記すべき事項」には、基準領域ごとの評価により見出された特長について記しています。

Ⅰ で基準領域をすべて満たしているにもかかわらず、Ⅱ 及びⅢ で課題として記載された事項については、今後、岡山大学教育学部において自らの教員養成教育の質の向上を図る際に参考にさせていただくことを望みます。

根拠資料一覧

- 資料 1 岡山大学教育学部ディプロマ・ポリシー
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/dp-edu.html>
- 資料 2 F D 研修会開催記録・授業公開の記録 (F D 委員会の年次活動報告)
- 資料 3 教職実践ポートフォリオ (第 2 版)
- 資料 4 平成 27 年度「教職実践演習」ハンドブック
- 資料 5 岡山大学教育学部アドミッション・ポリシー
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy16.html>
- 資料 6 岡山大学教育学部カリキュラム・ポリシー
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/cp-edu.html>
- 資料 7 岡山大学教育学部 2016 年版学部案内
- 資料 8 教員養成コア・カリキュラム
URL : <https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/curriculum/>
- 資料 9 平成 27 年度岡山大学教育学部シラバス「フィールド・チャレンジ A・B」
- 資料 10 平成 26 年度連携協力事業研究報告書
- 資料 11 教員養成教育における附属学校園等と連携した「教科構成学」教授法開発事業の実施
URL : <https://cted.okayama-u.ac.jp/advance/subject/>
- 資料 12 ナンバリング
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/numbering.html>
- 資料 13 平成 27 年度教育学部シラバス「漢文学 (経子) ①」
- 資料 14 岡山大学教育学部『学生の手引』
- 資料 15 1 年生に対する教職や専修 (専門) への導入・補完などに関する講座の取り組み
- 資料 16 教職相談室利用者数調 (就職・学生委員会)
- 資料 17 岡山大学教育学部『教職・就職ハンドブック 2015』
- 資料 18 岡山大学 Press Release (平成 25 年 3 月 22 日)
- 資料 19 教育学部カリキュラムマップ, 各コース・課程履修モデル
URL : http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/gakumu-gakushil/file/cp-edu.pdf
- 資料 20 岡山大学の教育改革「学びの教科」～60 分・クォーター制の導入を柱に～
URL : http://www.okayama-u.ac.jp/user/ei/pdf/60q_press1.pdf
- 資料 21 ESD 協働推進室の業務内容・活動内容
URL : http://esd.okayama-u.ac.jp/promotion_center/activities/
- 資料 22 平成 28 年度 AO 入試学生募集要項
- 資料 23 《平成 27 年度教育連携協議会教育連携事業》高校生が岡大キャンパスで大学生と共に受ける授業の聴講実施要項
- 資料 24 教育学部における高校生を対象とした教育・研究活動支援
- 資料 25 教員免許取得ガイド (平成 27 年度入学者用)
- 資料 26 『2011 年度 岡山大学 第 5 回 学生生活実態調査報告書』
- 資料 27 教師教育開発センター概要図
- 資料 28 教師力養成講座受講者数
- 資料 29 平成 26 年度教職ガイダンス (掲示)

- 資料 30 平成 27 年度オリエンテーションスケジュール
- 資料 31 留年学生及び修得単位数の少ない学生への履修指導及び修学状況等の調査について
- 資料 32 講座等における各種オリエンテーションや合宿研修等を活用した取り組み
- 資料 33 ガイダンス科目「学問の方法（各講座担当コマ）」における学生の教職への意欲向上や適性を把握する講座の取り組み
- 資料 34 講座における学生の教職への志望状況の把握と指導上の活用
- 資料 35 講座における卒業生の就職状況の把握
- 資料 36 講座における教員等採用候補者選考試験対策の取り組み
- 資料 37 教育学研究科・教育学部の管理・運営体制
- 資料 38 教育学部建物平面図
- 資料 39 授業評価アンケート（アンケート用紙）
- 資料 40 平成 27 年度教育実習・特別支援教育実習・養護実習 事前・事後指導計画
- 資料 41 相談室利用状況
- 資料 42 学生支援窓口一覧
- URL : http://ssc.cc.okayama-u.ac.jp/up_load_files/topix/20150401madogutiitirann.pdf
- 資料 43 保健管理センター・学生相談室ホームページ
- 資料 44 平成 27 年度教採自主講座開講のお知らせ、実施状況
- 資料 45 平成 27 年度教員採用試験説明会（H26・H27）参加者数
- 資料 46 文部科学省の教員採用率公表資料
- 資料 47 文部科学省の教員採用率公表資料を元にした教員就職率が高い大学の資料
- 資料 48 FD研修会資料「2014 年 E S D に関するユネスコ世界会議について」
- 資料 49 平成 27 年度教育学部シラバス「教育の制度と社会」
- 資料 50 平成 27 年度教育学部シラバス「E S D の理論と実践」
- 資料 51 教科内容構成指導法ハンドブック
- 資料 52 FD研修会資料「教員養成教育における教科内容構成学構築の必要性和本学部の取り組み」
- 資料 53 平成 27 年度教育学部シラバス「教育実習Ⅰ～Ⅲ」
- 資料 54 岡山大学教育学部『平成 27 年度教育実習Ⅰの手引』
- 資料 55 S-T シャトルカード
- 資料 56 社会科教育研究会の案内
- 資料 57 平成 27 年度教育学部シラバス「教職実践インターンシップⅠ・Ⅱ」
- 資料 58 課題探求型授業の実践事例（中等数学科指導法開発 A）
- 資料 59 講義室の設備設置状況
- 資料 60 平成 23～27 年度文部科学省特別経費事業「先進的教員養成プロジェクト」
中間報告会・シンポジウム配付資料「H25 教職実践インターンシップの成果と課題」2014 年 3 月 7 日
- 資料 61 平成 26 年度教職実践インターンシップのアンケート【学生用】結果
- 資料 62 平成 26 年度教育実習Ⅰ受講生アンケート結果
- 資料 63 教育学部教育実習改革ワーキンググループ第 5 回会議資料
- 資料 64 平成 26 年度教職実践インターンシップ・教育実習反省会資料
- 資料 65 岡山大学スクールボランティアフェア 2015 開催状況報告
- 資料 66 岡山大学スクールボランティアフェア 2016 実施方法について

- 資料 67 『授業力パワーアップセミナー ワークブック指導書』
- 資料 68 岡山 CST 養成プログラム (CST 岡山) - 学生 CST 養成プログラムのご案内
- 資料 69 学生 CST 養成プログラム履修の手引き (平成 27 年度版)
- 資料 70 現職 CST 養成プログラム履修の手引き (平成 27 年度版)
- 資料 71 岡山理数系教員 (CST) 養成拠点構築事業実施報告書 (平成 26 年度)

[追加資料]

- 資料 72 大学組織図
- 資料 73 教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議
- 資料 74 平成 26 年度 FD 研修会実施状況
- 資料 75 平成 26 年度授業公開・意見交換会実施報告書
- 資料 76 フィールド・チャレンジAの履修について
- 資料 77 フィールド・チャレンジB実施内容一覧
- 資料 78 岡山大学ファカルティ・コーディネーター設置要綱
- 資料 79 <教育連携協議会教育連携事業> 高校生が岡大キャンパスで大学生と共に受ける授業過去の受講状況
- 資料 80 岡山) 高校生が模擬投票 地元の魅力発信案選ぶ: 朝日新聞デジタル
- 資料 81 平成 27 年度教職ガイダンス
- 資料 82 平成 27 年度学生実地指導旅費